

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

## 事業名 労務作業省力化ICT活用事業費

令和2年度事業名：労務作業省力化ICT活用検討事業費  
(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 整備係 電話番号：058-272-1111(内 3194)

E-mail: [c11515@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11515@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,500千円(前年度予算額：3,500千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,500	1,600	0	0	0	0	0	0	1,900
要求額	3,500	3,000	0	0	0	0	0	0	500
決定額	3,500	3,000	0	0	0	0	0	0	500

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県の森林づくり基本計画では、広葉樹の有効活用が掲げられているが、広葉樹林の資源量については、樹種や箇所における差が大きく、正確な資源量がわかっていない。また、調査にあたっては、現地調査をする必要があるが、労務の多さから、実施することが困難な状況にあり、県内の森林において広葉樹林の森林資源の把握に向けた調査は、ほとんどなされていない。こうした状況の中で、県下の森林の4割以上を占める広葉樹林の資源量が把握されていない為、有用広葉樹についても需要に合わせた供給ができず、広葉樹をチップ材として安価に販売するしかない状況となっている。

このため、県内の広葉樹資源の有効活用のために、ドローン等の新たな技術による資源量調査の省力化の検証が必要である。

### (2) 事業内容

#### (ア) 事業目的・事業効果

県下の広葉樹林の資源量の把握に向けて、ドローン等の新たな技術を活用した検証を実施する。

(イ) 内容

ドローン等の ICT を活用した広葉樹資源量の計測を行う業務を委託する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・補助率：定額（10/10）（委託費）

(4) 類似事業の有無      なし

3 事業費の積算内訳

単位：千円

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託費	3,000	I C T を活用した広葉樹資源量の調査
報償費	63	
旅費（費用弁償）	22	
旅費（業務旅費）	300	本庁、農林事務所、アカデミー、森林研究所
需用費	80	消耗品費
役務費	35	通信運搬費
合計	3,500	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3期岐阜県森林づくり基本計画

第5章 5 森林区分ごとの整備方針      (2) 広葉樹林の有効活用において、有用広葉樹の収穫が見込める森林では、大径材生産を図り、木材生産量を拡大することとしている。

(2) 国・他県の状況

他県では進められていない先進的な事例である。

(3) 後年度の財政負担

令和4年度以降も支援を継続予定。

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：県が活用が進んでいない広葉樹林の活用に向けて、県内の広葉樹林の資源量把握の技術の検証をすることは妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

#### ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

未利用資源である広葉樹林を有効活用するため、令和3年度はICTを活用した広葉樹資源量の調査を実施する。令和4年度には以降は、令和3年度と同様の調査を継続して行うとともに、調査個所の広葉樹を伐採してICTによる資源量調査の調査材積と生産材積の比較を行い、効率的な広葉樹資源量の把握に向けた技術を開発する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
「ICTによる広葉樹資源量調査」及び調査方法の有効性の検証	なし (R2)	なし (R2)	34市町村* で実施 (R5)	0%

\*県内では34市町村に森林が所在する。

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・ドローン等を活用した森林情報に関する管理体制の強化及び効率化、森林整備事業の実施に係る申請、検査の省力化を目的に、全国の先進事例等について調査し本県との比較を行い、ICTに対応した森林整備事業マニュアルを作成した。

・ICTを活用した森林整備事業を早期に普及するため、県内林業事業者を対象に研修会を実施した。

### （前年度の成果）

・森林整備事業へのICT活用に伴い、県内林業事業者でドローン等の機器及び解析ソフトの導入が急激に進んでおり、ICT活用への理解が広がっている。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県森林づくり基本計画で広葉樹の有効活用を目指しているが、広葉樹林については正確な資源量が把握されておらず、広葉樹の有効活用のために必要な調査である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) △	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有用広葉樹の資源造成に関する知識や技術のさらなる向上が不可欠であり、未だ広葉樹林における森林整備は十分に進んでいない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) △	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広葉樹林の資源量調査を行うことにより、森林整備の選択肢が増え、計画的な森林整備が可能となる。</li> </ul>

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広葉樹林の資源量を把握し計画的に森林を整備するためには、県内林業事業者等へ情報を提供するとともに、有用広葉樹の積極的な活用に向けた専門技術の習得機会の創出が必要である。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を使った効率的な広葉樹資源量の調査に関する有効性について検証する。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	なし	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など		